

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団聖山会		
事業所名	グループホーム風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎997-3		
自己評価作成日	平成24年7月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成24年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「自然にあふれる笑顔を大切に」の理念に沿って</p> <p>①職員がポジティブに(一緒に過ごすケア)を心がけている。</p> <p>②一人ひとりの能力に合わせた手段的日常動作を大切に食事を楽しむ。「食材を切る(包丁・ハサミ・手でちぎる)」「調理をする」「味見をする」「盛り付ける」「後片付け」など得意なものを担当して頂きスタッフと共に「家族」として楽しみながらいきいきと料理をしている。</p> <p>③ウッドデッキは日中施錠せず、自由に外気にふれる事ができ、笑顔がみられる毎日である。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム風早の里」は「すみれ」「さくら」の2ユニットであり、施設中央にウッドデッキが設置されており、各ユニットから自由に入出りができ、入居者は気軽に外の空気に触れることができる造りとなっている。「笑うこと」を理念とし、施設内に掲示していると共に、玄関には理念と「笑いの処方箋」という職員の心得も掲げており、職員は入居者と日々の関わりの中で笑いをケアに活かし、明るく楽しい施設作りを目指している。母体が医療法人であることから、緊急時・急変時には24時間体制で連携を図っており、重度化・ターミナルケア時にも適切な医療支援ができるよう協力体制が構築されている。口腔ケア体操の実施や化粧教室の開催等が行われており、入居者や職員から高い評判を得ている。また、入居者による電子ピアノの演奏や生け花の飾り付け等、生活歴を活かした生活支援も行われている。他には、ユニットごとに発行される新聞には入居者の生活の様子等が写真入りで掲載されており、家族等の楽しみとなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかに自立した生活が出来るよう支援をしている。個々の職員の能力に合わせた研修参加に努めている。	「自然にあふれる笑顔を大切に」という理念を掲げており、理念を施設内に掲示すると共に、研修の実施や入職時に配布されるマニュアルへの明記等、理念の周知徹底を図り、サービスの実践に向け意識の統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧等で行事案内を頂き、地区社協のサロンや交流会に参加している。また、地域の中学校の福祉体験学習や介護福祉士の実習生等の受け入れをおこなっている。	自治会に加入し、地域行事や高齢者交流会への参加等には積極的に参加しており、地域交流を重要課題に掲げ、地域住民への理解促進を図っている。また、中学生の体験学習や労働センターからの実習生の受け入れ依頼等、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の御家族の訪問・見学に応じ、相談等にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター、地区社協、民生委員、御家族の代表、入居者を交えて現状、行事予定、事故報告等の説明をし、皆様の助言・要望・御意見を聞き可能な限り反映できる様取り組んでいる。	地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・自治会会員・民生委員・入居者・家族職員等を構成員として昨年度は2回運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告や質疑応答を行い、施設の理解促進に努め、サービスの質向上につなげている。今年度からは、年4回の開催を目指しており、消防訓練や施設行事との合同開催等、開催方法に工夫を凝らすと共に、年次計画表を基に参加者への打診や地域住民に向けた情報発信等、出席率の向上や地域住民との関係作りに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援課、地域包括センターに直接訪問したり、電話等により不明な事項など早期に解決できるよう連携している。	日頃から市に対して報告・相談等を随時行っていると共に、運営推進会議を通じて、意見・情報交換を行っており、協力関係が築かれている。また、柏市グループホーム連絡会の定例会に参加し、市へ意見や要望の提案を行っており、地域の現状に即したサービスの提供やサービスの質の向上に向け、市とグループホーム連絡会との協働体制の強化が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で研修を行い、身体拘束マニュアルに沿って拘束のないケアに努めている。	身体拘束排除におけるマニュアルの整備・研修の実施等、全職員が身体拘束排除における意義を理解しており、入居者らしい、自由な生活を支援している。玄関扉のチャイムを活用し、入居者の外出希望を瞬時に汲み取り、職員による見守り・声掛け・付き添い等を行い、一人ひとりに即した安全面に配慮された暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い、虐待防止の資料を配布して理解を深め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度、権利擁護の資料を配布して理解を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時や重要事項説明の際、項目ごとに説明を行い、不明点等ないか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口や意見箱を設置すると共に、家族の面会時・電話連絡時に家族の意見・要望を確認している。また、挙がってきた意見・要望の関しては会議等を通じて、職員に周知・検討し迅速な対応を心がけている。	意見箱の活用・家族の面会時・電話連絡時等に直接家族の意見・要望を確認している。挙がった意見・要望においては、会議にて周知・検討を図り、適切な改善につなげている。定期的にユニットごとに新聞を発行し、家族に入居者の様子を写真入りで報告し、施設理解を図ると共に、意見・要望を言いやすい環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会を開き意見・提案を確認している。	定期的にユニットごとに会議を開催し、職員より挙がった意見・提案等を全体会議で把握・検討を行い、施設運営に活かしている。また、内外研修参加の機会を設ける等、職場環境の整備・人材育成にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回昇給を行っている。また介護職員処遇改善交付金を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が向上心を持てるよう可能な限り外部研修参加を勧めている。また事業所内で研修も月に一度行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会での研修会に参加。また、他のホームの管理者との交流も行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して生活に慣れるまで声掛けしながら見守り様子を観察、傾聴に努め他の入居者の方と良い関係が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話し、訴え等はよく傾聴して相談できるように努め、連絡を取り合えるにしている。また、家族の要望は、職員が周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の生活の様子、生活歴等を十分理解し、御家族と細かく連絡を取りながら支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力に合わせた日常生活を大切にしている。一緒に家事を楽しみ共感した生活をしている。本人の希望に少しでも寄り添っていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、誕生日会等の写真付のお手紙を毎月1回発行し、本人の様子を書いて送付している。必要時には本人の様子を電話連絡し家族が会いに来られる機会が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添って、連絡できるように支援している。また、入居前の人との関わりや場所など家族にも協力してもらい継続的な交流ができるよう支援している。	馴染みの場所への外出や行事への参加等、入居者の要望に即した柔軟な外出支援を行っている。また、外出・外泊においては家族の協力を得る等、家族関係継続も支援している。他に、馴染みの人や親せき等への手紙のやり取りを支援しており、馴染みの人との交流継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をとるテーブルやドライブなど会話が弾むように座席を考慮し、入居者同士が関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や関係機関の紹介等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に直接伺ったり、日々の言動から推測し、本人の意向に近いものを引き出せるよう努力している。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。入居後は日々の生活や会話の中から意向の把握を行い、記録している。会議にて全職員で記録を活用しながら情報交換を行い、周知・検討を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から話を伺い、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状況をケース記録、排泄状態、水分・食事量、バイタル等個別に記録して状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族の意向を踏まえ、記録を活用し、管理者と居室担当者が介護計画の原案を作成している。ユニット会議にて原案について話し合い、意見をまとめた上で介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	日々の記録や本人・家族の意向を基に原案を作成している。会議には本人・家族も参加し、職員と意見・情報交換を行いながら、入居者一人ひとりに即した介護計画を作成している。また、定期的に目標達成状況の確認を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、日誌、健康管理表を記入している。毎日の申し送りを通し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合の病院受診、緊急時は相談しながら応じている。買い物等も代わりに応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、訪問歯科、地域の高齢者交流会等活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が可能である。状況に応じて職員が付き添いの支援を行っている。定期的に内科医・歯科医による訪問診療が実施されている。また訪問看護ステーションと契約を結んでおり、健康管理、相談も行っている。	希望のかかりつけ医への受診が可能になっている。また、希望に応じて、職員が付き添い支援を行っている。法人母体の病院による定期的な往診の実施や緊急時・重度化における24時間の対応等が行われており、医療支援や健康管理面で適切な対応が図られるよう協力が構築されている。また、訪問看護ステーションとの契約により看護師が健康管理や相談対応を行っており、家族や職員の医療面・健康面に関する不安解消に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化時は訪問看護ステーションの看護師に報告、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に情報提供を行っている。また、電話や面会等で情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、もしくは終末期において、御家族と話し合いを持ち、必要に応じて医師・訪問看護ステーション看護師、職員と対応方法話し合い、意向に沿った終末の支援に努めている。	重度化・終末期における施設方針やマニュアルを作成しており、契約時に本人・家族に説明し、了承を得ている。重度化・終末期においては、協力病院との連携が図られていると共に、家族・医師・訪問看護師等と相談しながら、家族の意向に即した支援が行えるよう取り組んでいる。重度化・終末期に向けた職員の研修の充実を図り、施設としての支援体制の整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	柏市グループホーム連絡会で行う合同救命救急講習を受けている。今後も参加する予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。火災報知機、自動通報器、非常ベル、消火器、スプリンクラー等の消火機器を設置している。	年2回、消防訓練を実施している。非常災害時・緊急時におけるマニュアルを整備すると共に、施設内のオール電化・火災報知機・スプリンクラー等の防火対策や家具の固定・非常食の見直し等、非常災害時に備えている。また、柏市グループホーム連絡会の消防関連の研修会に参加し、非常災害時の避難対応方法の習得とグループホーム連絡会や関係機関との協力体制の構築に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持ち接している。理解しやすい言葉を用い、自己決定ができるよう問いかけをしている。	会議や研修等でプライバシー保護や接遇についての指導が行われていると共に、職務規定に職員倫理を明記し、入職時に誓約書を交わす等、入居者への尊厳厳守の徹底を図っている。全職員は入居者一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法を工夫する等、プライバシーに配慮しながら、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えだけでなく、表現・表情で推測して確認しながら対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしながら柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は出来るだけ本人に決めていただいている。また、月に1回の訪問理美容。3ヶ月に1回のお化粧品教室がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望・能力に応じて、食事の準備・調理・後片付けを共同で行っている。	献立と食材の購入は、一部を委託業者を利用しており、入居者の嗜好・身体状況・栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。手作りおやつ・誕生会・外食会等では入居者の希望を取り入れ、家族や友人の参加等、食を通して様々な取り組みが行われており、食に対する楽しみが増し、生活活性化に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、少ない量の方には声かけをし、時には好みの物をお出している。嚥下状態により刻み食、トロミ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。週1回の訪問歯科診で治療・口腔内チェックをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、声掛けやトイレ誘導で排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握し、適切な排泄支援がなされている。声掛け・トイレ誘導・夜間のポータブルトイレの活用等、身体状況に応じた排泄の自立支援に取り組んでいる。また、必要に応じて、献立の工夫や医師・看護師と相談しながら排泄コントロールを行い、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝1番の水分、牛乳を飲んでいただいている。繊維質の食事の工夫や運動を取り入れている。腸内環境を良好にする為、ヤクルト・ヨーグルトの提供と、主治医による処方でピオフィルミンや緩下剤で調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。拒否をしている場合は無理に介入せず、次のタイミングを待つようにしている。	浴室・脱衣所に暖房・トイレ・天窓が設置されており、空調管理や身体状況に配慮された造りとなっており、安全で快適な入浴を支援している。入浴は毎日実施されており、希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴を実施する等、柔軟に対応しており、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況を考慮して自由に出来るように気を配り、疲れている様子が見られたら居室で休むように声掛け、誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1包化された処方薬を誤薬のないよう一人ひとり名前を確認し服薬介助している。内容変更時は、その都度、全員が周知出来るよう申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗い物、洗濯物たたみ、掃除などを無理のないようお願いし、散歩や買い物好きな方は、買出し時に同行してもらっている。気候のいい時期には、外出行事等で気分転換もはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望・体調・天候に応じて、散歩等の外出支援を行っている。季節ごとに外出の機会を企画、実施し、車での外出も提供。また、御家族にも協力していただき、自宅やお墓参り、外食等に出かけられている。	日頃から散歩・買い物・ドライブなどの外出支援がユニット単位で行われている。年度計画に季節に合わせた外出行事が企画されており、戸外での楽しみを支援している。また、計画外の外出や家族を含めての外食会やドライブ等、幅広い外出活動を実施しており、入居者の生活活性化や職員・家族との楽しみの共有化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設では管理はしていないが紛失する可能性があるということを御家族が納得されている場合、お財布にお金を入れて本人が持っている。買い物は本人が支払うことができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は「書く」事が難しくなりつつあるので、電話をしたい要望があれば相手先の時間等を考慮しながら使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾りつけを行い季節感を感じていただけるよう気配りをしている。また、廊下・トイレなど危険のないように注意して車椅子で移動したり介助できるようにしている。空調、換気、湿度に注意し清潔保持に努めている。	施設内は十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全が確保されていると共に、天窓の設置により、空調の配慮もなされ、明るく居心地の良い空間となっている。ユニット同士が向かい合うようにウッドデッキが設置されており、物干し場やプランター等が配置されている。また、ユニット間の行き来や出入りが自由となっており、交流の場や気分転換の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、自発的な行動が出来るよう配慮している。フロア・ウッドデッキ・玄関内には椅子も配置して、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族、御本人とも相談の上、馴染みの物を持ち込んでいただき、安全で落ち着いた環境になれるよう配慮している。	入居者・家族の要望により馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活ができるように配慮されている。入居者一人ひとりの生活歴にを考慮しながら、生活スタイルに合わせたその人らしい居室作りがなされている。居室表札の工夫や飾り付け・写真の掲示方法等、身体状況に応じた工夫しながら、自立に向けた支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室の名札は入居者が困っているときにその都度工夫をしている。手すりを設置し安全に歩行できるよう気を配り支援している。		